

「教育活動評価」結果に見る考察

1. 学校運営について

1) 調理科

- ・保護者の立場では理解を得ていると思う。生徒の理解も増えるよう指導の工夫をしていきたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・生徒よりも保護者の方が満足度が高い。生徒の満足度が高くなるようにしたい。

3) 普通科情報表現コース

- ・生徒、保護者とも「学習環境の整備について」がやや低く、「相談・助言について」はやや高かった。これまで通り個別の対応をこまめにしていくとともに、今後は学習環境の整備に努めていきたい。

4) 普通科デザインアートコース

- ・学校、コース、学級の通信などは自分たちの活動に必要な情報内容なので活用している。保護者からの満足度が高かった。

5) 普通科総合コース

- ・昨年度の集計では、全体集計とさほど変わらなかったが、今年度は全体集計と違う傾向の項目がいくつかあった。「ほぼできた・すこしできた」の割合が減っている。もっと学校に対する関心を高める指導が必要と思われる。
- ・学校の通信便りについては、全体としてもコースとしても昨年同様保護者の評価が高い。学校の様子を知りたがっている保護者が多いということだと思う。またコース通信やクラス通信などをけっこう生徒は持ち帰っているのかもしれない。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・いじめ、暴力がなく互いを尊重して学校生活を送っている様子が伺えるが、相談・助言を今以上に求めていることが伺われる。

7) 進路指導部

- ・進路 NEWS 配布、学校ホームページ随時更新により、内外に進路指導の進捗状況を発信した。来年度はタイムリーな情報をこまめに提供していきたい。

8) 生活指導部

- 新入生研修合宿での県警サイバー班による「ネットの危険性」についての講演は、人間関係のトラブル抑止に効果があった。
- 生徒理解と健康観察から、日頃のささいなことを逃さず大切にしたことにより、大きなトラブルを未然に防止していた。

9) 募集業務部

- 生徒く保護者く教職員の数値結果が出ているなかで、②学校からの通信については保護者からの評価が高い。日頃から学校での様子を話す子供ばかりではないので、コースやクラス通信から情報を得ているのだろうから、こまめな発信は今後も重要だ。⑤いじめ、暴力のない学校づくりへの取り組みについて保護者が満足していないのは問題である。発信の方法も含めて、広報活動をするべきではないか。

10) 総務部

- 生徒および保護者に関しては、昨年度とほぼ同様の回答となっている。震災から月日が経つにつれてそれぞれの意識が薄れていくことが推測される。
- 個人やご家庭または地域など災害に対する意識や備えの再確認を毎年行うことが必要と感じる。
- 学校として、災害発生時の体制が整ったので、細かな部分について協議し調整していくことが今後の課題と考える。

11) 保健厚生係

- 学習環境の整備について生徒の全体の評価は、比較的良く「当てはまる」と「少し当てはまる」で過半数であった。特に健康スポーツコース・デザインアートコースでは、達成度が高かった。
- いじめ・暴力のない学校づくりについて、生徒の全体の評価は良い。保護者の評価は生徒より低く、今後理解いただけるよう働きかけが必要である。
- 相談・助言については、他の項目に比べ生徒の満足度がやや低かった。しかし保護者の満足度は得られていた。今後に向けて、生徒の要望に答えられるようさらに対策が必要である。

2. 4つの重点目標について

1) 調理科

- 生徒と保護者の評価の差が大きい。生徒の評価も保護者と同等によい状況になるようにしたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- 保護者は生徒の取り組み等を高く評価しているが、生徒自身は専門科目が多く難しいため、十分に組み合わせていないと感じているようだ。

3) 普通科情報表現コース

- 生徒の評価が全般的にやや低い。学校生活全般について自信を持って取り組めるよう働きかけていきたい。

4) 普通科デザインアートコース

- 基礎、基本を中心にした分かりやすい授業内容に満足している。授業の準備を整え、落ち着いた態度で学習に取り組み、特に専門科目の学習に対する満足度は高いと思われる。

5) 普通科総合コース

- 学校運営同様、全体集計より「ほぼできた・すこしできた」の割合がやや少ない項目がいくつかあるが、特に授業内容に関する項目の割合が低い。授業の工夫がより一層求められるのかもしれない。
- 朝読書の意識が全体よりやや低い。
- 欠席遅刻と校内ルールの「ほぼできた・少しできた」は全体よりやや低い。自覚はしているようだ。
- 各種検定資格は全体とほぼ同様の結果であるが、コースの特徴からするともっと自覚を持ってほしいところであり、啓蒙活動をより強化する必要がある。
- 部活動に対しての意識は低い。活動人数が少ないためであろう。

6) 普通科健康スポーツコース

- 授業規律や校則を守り、落ち着いた学校生活を送っているが、定期考査や検定・資格など進路についての取り組みや意識が弱い。

7) 教務部

- 「分かりやすい授業」に関して教員と生徒の意識に隔たりが見られる。一斉指導による弊害を意識し、個別指導に割く時間を確保する等の工夫が必要と思われる。
- 授業や学習環境についての設問に対して、「分からない」と答えている保護者の数が多い。「たより」等による情報の発信が必要と思われる。
- 定期考査への取り組みを改善させるための策が急務である。設問⑫「家庭学習」とともに次年度の重点課題として取り組むべきと思われる。

8) 進路指導部

- キャリア教育・進路ガイダンスについては、保護者の満足度が高く、時期を前倒しにした保護者を巻き込んだイベントが評価されていると思われる。一方で生徒の満足度が50%にとどまっているので、生徒のニーズの吸い上げが必要である。より多くの生徒に社会との接点を持たせるために、進路ゼロ学期イベントとして2年生対象の職場見学を取り入れた。

9) 生徒指導部

- 部活動について、意欲的に参加できた生徒は6割弱であるが、保護者は7割・教職員は8割であり、差があった。科コースごとにバラつきもあるが、数年この傾向である。毎週木曜日に「部活動の日」を設定しており、加入率はここ数年9割近い数値をしめしているため、リーダーの養成を課題として取り組んできた。科コースの枠を超えての仲間意識を高める取り組みが必要と考えている。

10) 生活指導部

- 信頼関係を築くための基本となる「時間厳守」をしっかりと守らせ、自律した自己管理能力を育成する必要があると考える。

11) 募集業務部

- 科コースの学習内容から進路達成にむけての取り組みは、生徒、保護者ともに評価が高い。一方で、朝読書、環境整備、定期考査への姿勢といった「学びの姿勢の確立」は不十分のようだ。ただ好きなことをやれるだけというのではなく、好きなことを未来につなげるために学習に励むという意識を持たせるように発信したい。生活面では教職員の熱心な取り組みに理解を示す回答が多く、今後も一丸となって指導を継続するとよい。

3. 学校諸活動について

1) 調理科

- ・興味関心の高いものと低いものとの差があるが、全てにしっかり取り組む姿勢は植え付けたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・学校行事等は生徒、保護者とも高い評価である。ボランティア活動については、生徒は十分に取り組んでいないと感じている生徒が多い。積極的に参加させたい。

3) 普通科情報表現コース

- ・「学園祭、体育祭などについて」の生徒の評価が若干低い、他はほぼふつうの評価であるといえる。より積極的に諸活動に取り組ませていきたい。

4) 普通科デザインアートコース

- ・学校行事、コースの行事等に意欲的に参加し、学習成果をあげている。保護者も協力的で満足度が高い。

5) 普通科総合コース

- ・全体集計より「ほぼできた・すこしできた」の割合がやや少ない項目がいくつかある。学園祭・体育祭と遠足・修学旅行の「ほぼできた・少しできた」が全体より低いのは「もっと積極的に参加しなければ」という自分への反省があるのかもしれない。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・ボランティアについては部活動との兼ね合いもあり、機会に恵まれないことも現状として考えられる。校内で出来ることも発信して、生徒が積極的に取り組める環境を作っていくことが必要である。

7) 生徒指導部

- ・学園祭や体育祭、合唱とアンサンブル等行事に意欲的に楽しく参加できた生徒は、7割強であり、昨年より上回った。体育祭は、昨年に引き続き「明仙フィールド川平」で開催したが、生徒会本部や実行委員のアイデアで予想以上に盛況であった。また、学園祭では、「明成高校のど自慢大会」や、閉会式を体育館で開催し、吹奏楽部の演奏に合わせ全校合唱を行うなどの一体感を出す取り組みを行ったことが好評だった。今後も生徒の声を取り入れながら一体となって行事に取り組める工夫を凝らしていきたい。
- ・ボランティア活動については、震災直後からトーンダウンしている状況もあり、できた

と回答した生徒は昨年から微減の4割弱にとどまった。5月震災ボランティア活動として岩沼市千年希望の丘防潮堤植樹作業に参加、また9月学園祭では「広島県大雨災害募金」を行った。さらに10月「東北こども博覧会運営ボランティア（仙台大学等主催）」にも多数の生徒が参加した。継続して実施していくことが必要と考えている。

8) 募集業務部

- ・行事に参加して充実した高校生活を送っている様子が伝わった。保護者からも同様の数値が読み取れる。高い評価が教職員を上回るのは、喜ばしいことだ。

4. 高大連携について

1) 調理科

- ・進学に対する意識が低い状態で入学する生徒が多いのでこの結果は仕方がないが、実際に進学した生徒の数は増えており、学科の進学に関する指導は浸透している。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・大学の情報は、生徒への理解度が非常に低い。卒業後は就職を希望している生徒が圧倒的に多いためと考える。

3) 普通科情報表現コース

- ・「大学情報の活用について」の生徒の評価が少し高い。さらに高大連携を意識した活動を推進していきたい。

4) 普通科デザインアートコース

- ・進路選択にあまり活用している様子が見られないのは、コースの特徴として仕方ないと思われる。

5) 普通科健康スポーツコース

- ・仙台大学の施設利用は4割に留まっている。部活動での利用と考えられる。授業での活用は時間的な制約があるので難しいのが現状である。

6) 進路指導部

- ・仙台大との接点を持つ分掌として、仙台大からの情報収集、高校教員・生徒・保護者への情報提供を積極的に行っていきたい。

7) 生徒指導部

- 4月に宮城蔵王で開催する「新入生研修合宿」では、毎年仙台大学高崎先生と学生ボランティアの皆さんにご協力いただき、仲間づくりの一步となるレクレーションを指導していただいている。参加生徒アンケートによると、姉妹校である仙台大学への理解はもちろん、大学生活への憧れから進学を志す生徒もいるようである。
- 10月に開催される「東北子ども博覧会」では、仙台大学の学生とともに活動する運営ボランティアに本校生徒も多数参加した。子どもの世話中心の活動であるが、大学生と一緒に活動することによって、多くのことを学ぶようである。

8) 生活指導部

- 生活習慣に大きく影響があるスマートフォン・パソコン利用についての教育が必要と考える。

9) 募集業務部

- 生徒は3割弱、保護者も5割程度しか仙台大学との関わりを感じていないようだ。高大連携教育と特別推薦入学枠について、もっと発信に力を入れたい。

5. 家庭生活について

1) 調理科

- 4と関連するが、中学時まで「学力」の代わりに「手に職つけて」のイメージを学内外で改善していけば自ずと数字は高くなっていくと考える。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- 家庭学習の習慣が非常に低い割合となっているが、放課後に友人と共に勉強する生徒が多く、その方が集中できると考える生徒が多いためと思われる。

3) 普通科情報表現コース

- 「家庭学習の習慣について」では、生徒と保護者の評価が近い。比較的家庭での目が行き届いているように感じる。

4) 普通科デザインアートコース

- 帰宅後、家庭学習時間を確保する習慣が身についているようだ。家庭の一員として協力し合い、基本的な生活習慣が身についているようだ。

5) 普通科総合コース

- 基本的な生活習慣の「ほぼできた・少しできた」が全体集計より低い。自分への「反省」が見えてくる。
- 家庭学習に関しては生徒と保護者両方とも全体集計よりやや低い。学習不足は明らかである。

6) 普通科健康スポーツコース

- 家庭学習の習慣化は昨年度よりも低下している。進路への意識付けと連動させ家庭学習の定着化を図る必要がある。

7) 進路指導部

- 基本的な生活習慣に関することは進路指導の中で実践的な指導を行っている事項であり、挨拶・礼儀・提出物など引き続き、丁寧に根気強く指導していく。

8) 募集業務部

- 保護者は熱心に声かけをして子供の成長を期待しているようだが、教員が家庭学習への働きかけについて評価が低い。保護者の思いに答えられるように、家庭学習の定着を図る工夫をするべきである。⑪で欠席、遅刻は粘り強く指導しているとあるが、未然に防ぐ指導できるチームでありたい。